

# グリーン四国

No.1166  
2017年  
5月号

## 平成29年度 事業概要記者発表

4月21日、平成29年度四国森林管理局事業について記者発表を行いました 【詳細は2頁】



記者発表で挨拶をする野津山局長

### 目次

- 平成29年度 四国森林管理局事業概要…………… 2
- 『植える緑化』から『使う緑化』へ 春期「緑の募金活動」…………… 8
- 各地のたより…………… 8
- 新規採用者の紹介…………… 10



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

## 特集

## 平成29年度

## 四国森林管理局事業概要

4月21日、平成29年度の四国森林管理局事業概要について記者発表を行いました。

昨年変更された森林・林業基本計画では、造林コストの低減等による主伐・再造林の確実な実施、自然条件等に応じた奥地水源の針広混交林化等による多様な森林への誘導の推進等の公益的機能の高度発揮、原木の安定供給体制を構築することとされています。

このような中、国有林野事業においても、森林整備事業や治山事業等を通じて公益重視の管理経営の一層の推進、国有林の組織、技術力、資源を活かして、低コスト化、民有林と連携した森林整備の推進、木材需要の拡大・創出につながる木材安定供給の取組や地域の森林・林業の課題解決のための取組等を推進することとしています。

以下、四国森林管理局における今年度の取組の概要です

### 一、公益重視の管理経営の一層の推進

国土の保全、地球温暖化防止及び生物多様性の保全等公益的機能の維持増進を旨として、森林整備事業や治山事業の計画的かつ効率的な実施、保護林制度による原生的な森林生態系の保全・管理等を通じて、公益林として適切に管理経営を行います。

#### (具体の取組内容)

#### ① 多様な森林への誘導

国土の保全、地球温暖化防止、生物多様性の保全等の公益的機能の維持増進を図るため、将来的に均衡がとれた年齢構成となることにも配慮しながら、個々の国有林ごとに重視すべき機能に応じて、



間伐を実施し林内まで光があたるようになったスギ林

多様で健全な森林への誘導を推進します。木材生産の観点から自然条件や社会的条件が良く、森林資源の循環的な利用を図っていく人工林においては、引き続き

間伐等の森林整備を適切に実施するとともに、伐採年齢を標準の2倍以上とする長伐期施策等に取り組むほか、森林のモザイク的な配置にも留意しながら主伐とその後の確実な再造林を進めます。

また、急傾斜であったり奥地であるなど条件が悪い人工林等においては、自然条件等に応じ、部分的に伐採して広葉樹の導入を図り、針葉樹と広葉樹が混じった状態の森林にしていく取組を進めます。

## ② 治山事業の推進

効果的・効率的な国土保全対策を推進し、地域の安全・安心が確保されるよう、国有林と民有林が隣接する流域において、国と県が連携して事業調整を図りながら治山施設の設定等を行う「特定流域総合治山対策」を実施します。また、台風等により発生した荒廃山地において、道路などが再度被災しないよう「災害関連緊急事業」を行います。さらに、民有林直轄治山事業」を行います。

このほか、地域における山地災害対策



特定流域総合治山

や効果的な警戒避難態勢の整備に活用していただくため、山地災害危険地区情報の提供を行います。

こうした取組を通じて、山地災害の防止・軽減に向けた緑の国土強靱化を推進することとしています。

## ③ 生物多様性の保全

四国の国有林には、暖温帯林から冷温

帯林、亜寒帯林に至る植生の垂直分布を有する原生的な天然林や、それぞれの地域の自然を代表する植物群落を有する森林、希少な林木の遺伝資源が残された森林等、生物多様性保全の核となる貴重な天然林等が残されています。

四国局では、こうした森林を「保護林」



自動撮影カメラで捉えた親子のツキノワグマ

に指定し、原則として自然の推移に委ねながら、適切な保護・管理を行っています。また、野生生物の生息・生育地の拡大と相互交流を促すため、保護林と保護林を結び森林を「緑の回廊」に設定し、野生生物の移動経路としての森林を維持するための保全・管理を行っています。

④ ヤナセスギ資源の育成に向けた間伐の実施

ヤナセスギは、高知県馬路村の魚梁瀬地区周辺に分布し、美しい柰目せくめが見られることなどから和風住宅の天井板等に使用されてきました。

このヤナセスギの今後の取扱いについては、平成26年度に開催した有識者からなる「ヤナセ天然スギの今後の取扱いに関する検討委員会」での検討を踏まえ、平成30年度以降の継続的な供給は休止することとしており、平成29年度は、ヤナセスギ後継木育成等のための間伐を予定し、今後の資源育成のための知見収集を行うとしています。



ヤナセスギの林内の様子

二、森林・林業再生に向けた貢献

我が国の森林・林業の再生に向けて、国有林の組織、技術力、資源を活用し、低コストで効率的な作業システムの提案や先駆的な実行、民有林と連携した森林整備の実施、森林・林業技術者や林業事業体の育成、林産物の安定供給等を通じて、民有林の経営に対する支援等に積極的に取り組めます。

(具体の取組内容)

① 林業の成長産業化

【システム販売】

四国では、大型製材工場や木質バイオマス発電施設の稼働が本格化し、原木需要が急激に増加しています。各県では原木増産計画を立て、増産に向けた取組が行われ、この増産に対応するための木材のストックヤードも各地で整備・拡大されています。



バイオマス発電所（徳島県阿南市）

こうした需要拡大に対応するため、大規模需要者等と協定を締結し、間伐材を安定的・計画的に供給する「安定供給システム販売」の取組を拡大していきます。

【供給調整機能の発揮】

国有林材の適切な販売や木材需要急変時の供給調整機能を適切に発揮するため、丸太や製材品等の荷動きや価格の動向を定期的に把握、分析しています。平成25年度からは、木材の生産・流通・加工等の関係者、学識経験者、県の民有林行政の職員で組織している「四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会」において、専門的な観点から供給調整の必要性、実施方法について検討しています。

平成29年度においても、引き続き、地域の木材需給の動向を踏まえつつ、同委員会を開催を通じて、素材の供給量、供給時期、供給場所等を適切に判断し、国有林材の計画的な供給と供給調整機能の発揮に努めることとしています。

② トータルコストの縮減に向けた取組

戦後植栽された人工林が本格的な利用期を迎え、その豊富な森林資源を循環利用することも、森林吸収源対策としての森林整備の実施が重要となっています。

育成途上の人工林では、間伐を引き続き推進するとともに、伐採時期に達した人工林については主伐を実施し、その後の更新を確実に行っていきます。

これらを円滑に進めるためには、各作業の低コスト化、効率化が重要であり、間伐木を安全で効率よく搬出できる列状間伐の拡大やコンテナ苗・エリートツリーの導入、下刈りの省力化、伐採と造林を一体的に発注する一貫作業システム



コンテナ苗



エリートツリー

ムの導入等の各種取組を進めることにより、トータルコストの2〜3割程度の低減を目指します。

③ 民有林と連携した森林整備等の推進

地域における施業集約化の取組を進めるため、民有林と連携することで事業の効率化や低コスト化等が図られる区域については、民有林所有者と協定を結び森林共同施業団地として民有林と連結した路網の整備と相互利用の推進、間伐等の計画的な施業の実施等に取り組んでいます。

また、市町村の作成する森林整備計画及びその着実な実施に向けて、国有林野事業として協力するケーススタディ地区



現地検討会でのドローン飛行試験

を設定し、地域の実情に応じた市町村に  
対する技術的支援を行っています。

④ 新たな技術の導入と普及

森林・林業分野における、ICT（G  
PS、3Dレーザ計測器、無人航空機  
ドローン、360度カメラ）の活用は、  
試行的な段階から本格的な運用の段階へ  
と移行しつつあります。山地災害対応



萌芽して成長したコウヨウザン株

獣害対策、木材販売促進策など様々な  
ニーズへの活用に加え、民有林への支援  
等にも範囲を広げ、活用・実証に取り組  
んでいます。

⑤ 早生樹・コウヨウザン萌芽試験の取組

管内には、国内最古級のコウヨウザン  
試験地を有しています。コウヨウザンは  
スギの約1.4倍の速さで成長し、萌芽力も  
旺盛という特徴があり、この試験地は日  
本で唯一萌芽更新で第2世代が成林して

います。

今年度から施業技術の確立等を目指し  
て試験的に伐採し、2回目の萌芽更新に  
取り組むこととしています。

三、国民の森林としての管理経営、地域

振興への寄与

国有林を活用したふれあいの場の提供、  
森林環境教育を推進するとともに、森林へ  
の理解を深めるための各種イベントの開催  
等を行います。

また、二ホンジカによる農林業・自然植  
生への被害対策を民有林や地域住民と連携  
して捕獲及び被害森林の再生に取り組み  
ます。

(具体的な取組内容)

① レクリエーションの森の活用による地  
域振興

国有林では、多くの方々に森林を親し  
んでもらうため、優れた自然景観を有し、  
森林浴や自然観察等に適した箇所を「レ  
クリエーションの森」として設定し、保

健休養の場として提供しています。  
 設定した森林内では、来訪者が安心して登山等を楽しめるよう地元関係者と連携を図りながら歩道の整備等に取り組んでいます。



ウッドチップ舗装

特に、魅力的な自然景観を有する等、観光資源としての活用が期待される「レクリエーションの森」については、新たにモデル箇所を選定し、快適に森林を楽しむための環境整備や積極的なPRに取り組んでいます。

り組むこととし、4月28日に林野庁において「日本美しの森 お薦め国有林」として全局で93箇所が選定され、四国局では剣山、エ石山、千本山等の5箇所が選定されました。

② ニホンジカ被害対策

国有林野内のニホンジカを捕獲し個体数を調整するとともに、地域住民やボランティアの協力を得てニホンジカによって荒廃した森林の再生にも取り組んでいます。



小型囲いワナでの捕獲

また、捕獲効率の向上や低コストで効果的なニホンジカ被害防止対策のための技術開発・普及に取り組んでいます。

平成29年度は、囲いワナやくくりワナを使用して職員や猟友会による捕獲を実施するほか、一部の地域では猟友会と連携し、銃を使用した捕獲を実施します。再造林地においては、割竹や生分解性シートなどの自然に優しい素材を利用した食害防止対策費の低コスト化試験に取り組み、その有効性を検証します。また、ドローンを活用し、上空から効率的なシカ防護ネットの巡視等をするほか、シカ防護ネットの設置方法を改良するなどコスト低減の取組を進め、



ドローンの活用

民有林等への普及にも取り組まれます。  
 〈企画調整課〉

## 『植える緑化』から『使う緑化』へ 春期「緑の募金活動」

4月16日、公益社団法人高知県森と緑の会主催による「春の募金強化月間」(3月1日～5月31日)の一環として、高知市で「街頭募金」活動が行われました。今年度は、『植える緑化』から『使う緑化へ』をスローガンに展開しています。

今回は、「高知大好き乙女ねえちゃん」が発売を大いに盛り上げ、その勢いそのまま、野津山局長を筆頭に職員も日曜日で人通りの多い中央公



園入口とひろめ市場前での募金活動に出発しました。

4月上旬とは思えないほどの暑さのなか、子どもたちが力いっぱい「緑の募金にご協力お願いします」と募金を呼びかけると、大人から子どもまで多くの方が立ち止り次々と協力してくれました。

子どもたちは安芸市や伊野町からも参加してくれており、ひろめ市場前から中央公園に向かう帰り道も時間を惜しむように声を揃えて募金を呼び掛けてくれました。

頂いた募金は、水源の森林づくりや、緑の少年団の育成、国際緑化事業などに活用されることになっていきます。

〈技術普及課〉

## 「西土佐中学生の 職場体験学習」

4月12日～14日の3日間に行われ

て、西土佐中学校3年生の地域の様々な事業所を使った職場体験学習が実施され、当センターでも生徒を受け入れました。



シカの囲いワナに標識設置作業の様子

西土佐中学校では、例年「総合的な学習の時間における職場体験学習」を実施しており、今回で19年目になるとのことです。

この体験学習は、職場で仕事体験することで、学校では得ることのない貴重な体験や働くことの大変さや喜びを感じると共に、進路について考えることが目的となっています。

初日は、黒尊山国有林で、シカ捕獲の準備作業として囲いワナ1基毎に設置者や捕獲許可番号等を記載した看板、注意喚起のための標識等を結束バンドで取り付ける作業を行いました。

2日目は、木工教室等で使用する材料として、小郷江峠山(こごうすべつとつやま) 国有林で森林作業道開設のため支障木として伐採された



**各地のたより 目次**

西土佐中学生の職場体験学習

土佐町森林組合と「土佐町 櫻山地区の森林整備の推進に関する協定」を締結!!





ラス巻き作業の様子

サクラの枝を採取に行きました。  
 3日目には、黒尊山国有林でドローンを仕事で使っていることを説明した後、ドローンの操作体験を行いました。  
 また、シカ食害防止のため自生樹木を被覆していたヘキサチユープが、成長により逆に成長を阻害し始めたものを取り外し、ラス巻き（木の幹に網を巻くこと。）に切り替える作業を行いました。  
 わずか3日間という短い期間でしたが、それぞれの仕事を行うこと目的、方法を理解して作業を行って

もらいました。

生徒さんからは、「自然が好きなので、自然と関われる仕事は楽しかった。将来このような仕事に就きたいです。」といった感想が聞かれました。

将来、一緒に仕事できることを楽しみにしています。  
 〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

## 土佐町森林組合と「土佐町檜山地区の森林整備の推進に関する協定」を締結!!

平成29年3月30日、嶺北森林管理署管内の檜山国有林（203ha）と土佐町地蔵寺生産森林組合が管理している民有林（52ha）において、「土佐町檜山地区の森林整備の推進に関する協定」を土佐町森林組合と締結し、効率的な森林作業道の整備と相互利用、計画的な間伐の実施等を行うための森林共同施業団地を設定しました。

この協定では、当該施業団地に必



調印式

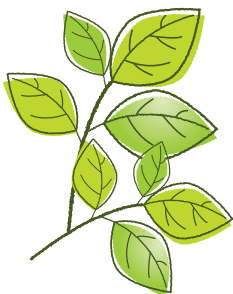
要な森林整備の目標や方法、路網等の施設の設定及び維持管理に関する事項などを定めています。

具体的には、長伐期施業及び複層林施業の推進、天然生広葉樹の保残などの適正な伐採方法の採用、林床の安定化を考慮した適切な間伐・主伐（複層伐含む）を計画的に実施することとしており、平成30年度までに国有林で複層伐8ha、素材搬出3580m<sup>3</sup>及び作業道新設2960m（民有林通過300m含む）、民有林で間伐10ha、素材搬出800m<sup>3</sup>を年次計画に沿って着実に実施することとしています。

今後についても、民有林と森林施業の一体化や効率的な森林整備が図られるよう、民有林関係者と協力関係を築きながら、地域振興に寄与していきたいと考えています。



遠望



## 新規採用者の紹介



- ①出身地
- ②趣味・特技
- ③社会人になったの抱負



**浅野 慶太**  
(香川所)

平成29年4月、6名の職員が採用となり、管内各署等に配属となりました。新規採用者の皆さんの抱負等を紹介いたします。

- ①大阪府
- ②自然散策（目標：日本百名山を全て登頂すること）
- ③貪欲に物事を吸収し続けること、困難な場面に対して前向きに捉えること、そして、相手の立場を考



**荒牧 直輝**  
(愛媛署)

えながら、視野広く柔軟に考え行動できるような社会人になりたいです。



**石田 薫**  
(四万十署)

- ①兵庫県
- ②趣味：ラグビー、特技：無限に眠れる
- ③学生の時は急情に過ごしていましたが、それでも何ができたのかを考えて林野庁に就職しました。私に何ができるのか分かりませんが、何でもできるよう、向上心、好奇心を持って頑張りたいと思います。

- ①徳島県
- ②旅行、散歩（土日は3時間位かけて周りを散策）



**渡邊 恭平**  
(安芸署)

- ③まだまだ慣れていないことが多く、学生気分が抜けていない自分にあきれる瞬間が多々ありますが、優しく話しやすい方々がいらっしやる良い環境に恵まれ、これから楽しく仕事ができることをうれしく思いながら日々努めていきます。

- ①広島県
- ②人と話すこと、楽しいこと全般！初対面の人とすぐ仲良くなれます。
- ③仕事のことはまだ分からないことだらけですが、早く林野庁・チーム四国の一員として働けるようになりたいです。笑顔と元気だけは忘れずに頑張っていこうと思います。よろしくお願いたします！



**西森 千紗**  
(安芸署)

- ①高知県
- ②ギターを弾くこと、バドミントン
- ③これから林業や森林のことを知って、仕事に専念していきたいです。積極的に活動し、分からないことを放置しないようにします。現場に行く場合も安全に楽しくしていきたいです。経理の仕事も早く覚えて慣れていきたいです。



**山口健太郎**  
(局森林整備課)

- ①長崎県
- ②5道
- ③3月まで学生だったので、1人暮らしにとても苦戦しています。早く家事全般ができるようになりたいです。また、趣味が少ないので、色々な事にも挑戦していきたいと思っています。